

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20025

建築物名称	(仮称)百合丘1丁目マンション計画新築工事
建築主	スカイコート株式会社 代表取締役 西田 和子
建築物の所在地	川崎市麻生区百合丘1丁目12番5
設計者氏名、建築士事務所名	村山 裕一 株式会社福子工務店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,011.10m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	令和3年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)百合丘1丁目マンション計画 新築工事	階数	地上5F
建設地	川崎市麻生区百合丘1丁目12番5	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	94人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年11月 竣工	評価の実施日	2020年9月18日
敷地面積	1,456㎡	作成者	株式会社福子工務店
建築面積	649㎡	確認日	2020年9月18日
延床面積	3,011㎡	確認者	株式会社福子工務店

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 96%</p> <p>③上記+②以外の 96%</p> <p>④上記+ 96%</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・材料</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 2.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 3.2</p>	<p>LR2 資源・材料</p> <p>LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.0</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地の維持管理に必要な設備を設置している		
2 まちなみ・景観への配慮	植栽により良好な景観を形成している	2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	建築設備に伴う排熱の位置等に配慮している		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握している	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	品確法5-1断熱等性能等級3相当		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	住居部:カーテン、庇にて制御	1.6/2.2	3.5
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地の維持管理に必要な設備を設置している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	建築設備に伴う排熱の位置等に配慮している	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級3相当		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.93	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水水栓を用いている		
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上がりが容易に分別可能、内装材と設備の錯綜なし	3.0/4.7	3.2
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握している	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.2
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	B:給水-硬質塩化ビニル管、排水-硬質塩化ビニル管、A:通気管-耐火二層管	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水水栓を用いている		
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上がりが容易に分別可能、内装材と設備の錯綜なし	2.6/4.0	3.2
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	適切な駐輪スペースの確保	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑地の維持管理に必要な設備を設置している		
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	建築設備に伴う排熱の位置等に配慮している	1.1/2.3	2.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級3相当		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.93	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地域気象観測データを用いて風環境を把握している	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	品確法5-1断熱等性能等級3相当		
2 自然エネルギーの利用	BEI=0.93	3.3/5.0	3.3
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質													2.8	
Q1 室内環境						0.40						-	3.3	
1 音環境					-	0.15	3.0	1.00					3.0	
1.1 室内騒音レベル					-	-	3.0	0.50						
1.2 遮音					-	-	3.0	0.50						
1 開口部遮音性能					-	-	3.0	0.30						
2 界壁遮音性能					-	-	3.0	0.30						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	3.0	0.20						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20						
1.3 吸音					-	-								
2 温熱環境					-	0.35	3.0	1.00					3.0	
2.1 室温制御					-	-	3.0	0.50						
1 室温					-	-	3.0	0.63						
2 外皮性能		W			-	-	3.0	0.38						
3 ゾーン別制御性					3.0	-								
2.2 湿度制御					-	-	3.0	0.20						
2.3 空調方式					-	-	3.0	0.30						
3 光・視環境					-	0.25	3.4	1.00					3.4	
3.1 昼光利用					-	-	3.4	0.30						
1 昼光率					住居部:2.616%	-	5.0	0.50						
2 方位別開口							1.0	0.30						
3 昼光利用設備		W				-	3.0	0.20						
3.2 グレア対策						-	4.0	0.30						
1 昼光制御		W			住居部:カーテン、庇にて制御	-	4.0	1.00						
3.3 照度						-	3.0	0.15						
3.4 照明制御						-	3.0	0.25						
4 空気質環境					-	0.25	3.8	1.00					3.8	
4.1 発生源対策						-	4.0	0.63						
1 化学汚染物質					F☆☆☆☆の建材を使用	-	4.0	1.00						
4.2 換気						-	3.6	0.38						
1 換気量						-	3.0	0.33						
2 自然換気性能					居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している		5.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮						-	3.0	0.33						
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														

Q2 サービス性能					0.30	-	-	2.6	
1 機能性					3.0	0.40	2.6	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.57	3.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応						3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性					-	-	2.0	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース								
3	内装計画						1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.43			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30			3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.1	0.30			
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		4.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		2.0	0.20			
2.4 信頼性					3.0	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.0	1.00	2.1
3.1 空間のゆとり							1.0	0.50	
1	階高のゆとり						1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり							3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				G	W				2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									2.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				3.0

